



～無理せず早めに作業を切り上げていれば～

事故の内容	ロータリーを装着したトラクターで農道(未舗装・轍あり)を移動中、崖に脱輪して横転
事故の原因	疲労による集中力の欠如と速度超過、ハンドル操作ミス、シートベルトの未装着
けがの状況	左くるぶしの骨折

**疲労を押しつけての長時間作業**  
**ハンドル操作ミスで崖に**  
 キヤベツ農家の男性(60代)が圃場でトラクターによる長時間の耕起作業を終え、作業場に移動中の農道で脱輪し、横転しました。現場は右に山肌、左が崖になっている農道のカーブです。横転した際に左足首を骨折した男性は、二週間の入院を余儀なくされました。  
 疲労が蓄積する収穫期の終盤に発生した事故。専門家は「速度超過とハンドル操作ミス、何より**疲れを押しつけて作業を続けた結果、集中力が欠如してしまっ**たことが原因では」と見えています。

# トラクターが脱輪 横転して左足骨折



予想以上にかかる費用  
**ヒヤリハットの共有**

男性は事故による損害について「代替労働力は問題なかったものの、トラクターの引き上げ費用や病院が遠隔地だったことによる家族の見舞いなど予想以上に負担が大きかった」と話します。

事故を教訓に従事者間でヒヤリハットの共有を徹底するとともに、狭い農林道や傾斜がきつい場所での作業は、経験が積んだベテランや機械に精通した若手が担当するなど、**役割分担を整理**しました。また、山間地に畑が点在しているため、**時間がある時は農道の整備をこまめに行う**ようにしているとのこと。

## あの時こうしていたら

- ・時間に追われて作業をしない
- ・終了間際こそ要注意
- ・作業区切りは体調を最優先
- ・早め早めの休憩をとる
- ・作業者同士でお互いの体調確認や声かけをする

横転事故が多発しています

安全第一

**翌早朝の作業準備のため薄暗いなか急いで走行中…**

夕刻の薄暗くなり始めた時間帯、畑作農家の男性(60代)がトラクターで敷地内道路を走行中、わき見運転で左側の斜面に脱輪。慌ててブレーキを踏んだら左前輪が宙に浮いた状態で停止しました。近隣農家がショベルローダで引き戻そうとするもバランスを崩し機体ごと斜面下に転落。ヘルメット、シートベルト未装着だったため頭部の出血がひどく、縫合手術を受けました。

**変形圃場でコンバインの切り返しをしたところ…**

稲作農家の男性(40代)が台形圃場の狭い隅をコンバインで回り刈りしようと切り返したところ、クローラー後部が畔に乗り上げました。とっさに男性は変速レバーを後進側に引いてしまい、水田に転落。完全な下敷きは免れましたが、肋骨等の骨折と内臓圧迫で救急搬送されました。

**草で視界が悪い進入路で…**

雑草の生い茂る進入路から水田にコンバインで入ろうとした男性(60代)が、進入路手前の段差で転落し、死亡する事故がありました。

## 予防と対策

安全キャブ・フレーム仕様のトラクターを使い、シートベルト・ヘルメットを着用

草むらや狭い道、坂道などは降りて道幅や路肩状態を確認

作業後、圃場を出る前にブレーキ連結を確認

トラクターに反射板・低速車マークを装着

**雨上がりの坂道でスリップ**

降雨後の狭い坂道をトラクターで走行中、スリップしそうになったためエンジンブレーキを止めて退避しようとした男性(70代)が機体ごと七m崖下に転落。頸椎と肋骨を折るけがを負いました。

**片ブレーキで排水路に転落**

80代の男性が安全フレームなしのトラクターで公道を走行中、停止しようとしたところブレーキの連結ロックを忘れていたため片ブレーキとなり、排水路に転落。トラクターの下敷きとなって死亡する事故がありました。

～家族の理解と代替がなかったら～



事故の内容	サイレーン取り出し中、地下式サイロに転落
事故の原因	サイロ周囲が霜で滑りやすく、長靴の底にも付着。チェーン巻き上げ機がサイロ上部に移動。
けがの状況	腰骨・左大腿骨の複雑骨折

# 高所から転落 両足骨折の重傷



牧草飼料の取り出し中  
三メートル下に転落

家族労働で乳牛七〇頭、飼料畑七ヘクタールを経営する男性（40代）がサイレーンを取り出す作業中、地下式サイロに落下して腰骨（腸骨）と左大腿骨を複雑骨折する重傷を負いました。事故当時、現場周囲は霜が降りて長靴の底にも付着し滑りやすくなっていました。これに加え、いつもはサイロ横に設置してあるホイスト（チェーン巻き上げスリット）がサイロ上部に移動するなどしていました。男性は入院とリハビリで通常の生活に戻るまで四か月を要したとのこと。

毎日の作業が必須の畜産業  
代替要員の確保待たなし

搾乳や給餌など、酪農は毎日の作業が必ず発生します。男性はけがで作業できなくなり、妻が農場管理について一通り理解しており、農業大生校二年生だった長男が代替要員になってくれたおかげで円滑に引き継げた」と言います。また、「前年にフリーストール牛舎とミルクングパラーを整備していたことが不幸中の幸い」とした上で、「もしも息子による代替がなかったら、ヘルパー雇用の必要から四百四十万円の出費につながり廃業していた可能性もあった」と振り返ります。

## 事故の教訓と改善策

- ① 作業内容のリスト化やタイムテーブルの共有など、日ごろから家族が作業代替しやすい環境を整備しておく
- ② 作業場の滑り止めや柵の設置、道具類の整理整頓を徹底する

## 落下事故の予防と対策

危険を伴う高所作業時はヘルメットを着用し、2人以上で行う

負傷時は安易に自己判断せず医療機関を受診

トラックの荷台などに上がる際は滑りにくい靴やヘルメットを着用

雨や油で一時的に濡れた箇所はウエス（布切れ）等でふき取る

はしごは床の設置部分、壁の立てかけ部分などがすべらないよう固定

### 脚立使用時の注意点

開き止め金具や開脚防止チェーンを掛ける  
作業時は手と膝で体を支え、天板とその下段の踏ささんには足をかけない  
降りるときは両手で体を支え、体重は残したほうの足にかける



落下事故が多発しています

フォークリフトで育苗箱を二階に収納しようとして…

稲作農家の男性（60代）が一人でフォークリフトを使い、育苗箱を作業場の吹き抜け二階部分まで荷を持ち上げました。その後、二階に移動して育苗箱を引き上げようとしたところ、リフトで持ち上げた高さが足りず、しゃがみ込んで取ろうとしてバランスを崩し一階に転落しました。数分後に事業主が現場を訪れると、本人はフォークリフトの後ろに寄りかかり「立ち眩みがしただけで大丈夫」と言うものの、様子がおかしかったためすぐに救急車を手配。その間に男性は意識を失い、搬送中に嘔吐、脳挫傷、脳出血により意識不明の重体となりました。

雨で濡れたトラックの荷台から…

てん菜の苗ポットが入ったコンテナをダンプトラックの荷台に積み込んでいた男性（70代）が雨で濡れた荷台で足を滑らせ、砂利を敷いた地面に転落。その日は痛みを我慢したものの、翌日病院で診察を受けたところ、肋骨を三本骨折、肺にも穴が空いていたため肺気胸の手術を受けました。

脚立の天板でバランスが…

果樹農家の男性（40代）がプールの収穫中、脚立の天板に右足を乗せて前かがみになった際、バランスを崩して滑るように落下。脚立に足を強く打ちつけ右アキレス腱を断裂しました。

はしごで降りようとして…

畜産農家の女性（70代）が牛舎の二階からはしごを使って降りようとした際、はしごの床の接地面が滑り、臀部と左足を強打して打撲傷を負いました。